

2025 年度 JRA 畜産振興事業
次世代の養蜂人材育成のための研修事業
募集要項

2025 年 4 月 14 日

公益社団法人国際農林業協働協会
(JAICAF)

目次

1. 事業の目的	1
2. 事業実施団体	1
3. 助成	1
4. 事業の概要	1
1) 事業スケジュール	2
2) 国内研修	2
3) 海外研修	4
4) 成果発表	6
5) 参加経費	6
5. 募集	7
1) 対 象	7
2) 募集内容	7
3) 参加要件	8
4) 応募書類	9
5) 海外研修参加者の選考	10
【添付資料】	11
【様式 1: 申請書】	12
【様式 2: 養蜂・ミツバチに関する課外活動(養蜂学習)の概要】	13
【様式 3: 画像・映像の使用及びメディア取材承諾書】	15
【様式 4: 国内研修参加者リスト】	16
【様式 5: 海外研修参加希望者(高校生): 候補者情報及び自己推薦文】	17
【様式 6: 海外研修参加希望者(高校生): 学校推薦文】	18
【様式 7: 海外研修参加希望者(引率者(指導教員))】	20

養蜂はハチミツ等蜂製品の提供の他、花粉媒介を通じてわが国農業に貢献する重要な産業です。近年、SDGs の観点などから注目を集める一方で、しかし、養蜂業の担い手不足や不十分な産業基盤といった課題があります。

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF）は、2024 年度に引き続き 2025 年度においても JRA（日本中央競馬会）から助成を受け、養蜂の意義・役割に加え、養蜂産業の課題や課題解決のアプローチを学ぶ高等学校向けの研修事業を実施します。

国内での学習と海外での研修を組み合わせ、養蜂産業をより広い視点から考える事業とします。海外研修は、世界でも有数の養蜂道具供給国である韓国で行います。

なお、本事業では、養蜂産業の観点からセイヨウミツバチを扱います。

1. 事業の目的

学校教育の現場においても、課外活動などでミツバチの生態や養蜂を通じた自然や社会との関わりをテーマに、学習を継続している学校があります。本事業は、こうした学校を対象に、現在各校で行われている学習を補強しつつ、養蜂産業への視点も得られるような学習プログラムを学校側に提供し、広く養蜂産業振興に貢献する人材の育成に繋げることを目的とします。

2. 事業実施団体

公益社団法人国際農林業協働協会（以下、JAICAF とする）が事業を実施します。

3. 助成

本事業は、JRA（日本中央競馬会）が行う 2025 年度日本中央競馬会畜産振興事業の助成を受けて実施されます。

4. 事業の概要

本事業では、ミツバチや養蜂の学習プログラム（以下、「養蜂学習」という）を実施する高等学校を対象に、養蜂産業の意義や実際を学ぶ研修を実施します。参加者は各校の養蜂学習に参加する高校生及び養蜂学習を指導する教員（指導教員）（以下、研修参加者とする）です。

研修のプログラムは、①通年の国内学習（国内研修）と②海外での研修（海外研修）を組み合わせたものとし、海外研修には参加校から代表者が参加します。一方、国内研修には、海外研修に参加しない研修参加者も参加し、年間を通じて学習を深めます。

1) 事業スケジュール

	全般	国内研修			海外研修 (韓国)
		座学	養蜂家訪問研修	定期ミーティング (MG)	
5月	5月19日(月) 午後3時 参加申込〆切				
6月		【オンライン】 6/7・6/14・6/21の 午後	養蜂家訪問(随時) * 埼玉近辺での企業 (未定) * その他、参加校近く の養蜂家	校内学習(自学) 第1回定期MG: 7/20 午後	5月30日(金) 参加者決定・通知
7月					研修参加準備 (参加者各自) オリエンテーション (7/20 午後)
8月					8/16 前泊 8/17-8/22 ツアー 8/23 報告会準備 8/24 報告会
9月	イベント等での 発表				
10月					
11月					
12月					
1月					
2月					
3月	成果発表会	事業終了・報告書発行			

2) 国内研修

国内学習は、①専門家による座学、②養蜂家訪問研修、③参加校間での学習共有と養蜂産業に関するグループワーク等を行う定期ミーティングから構成します。

海外研修に参加しない研修参加者も積極的にプログラムに参加してください。さらに、海外研修に参加する高校生と指導教員が持ち帰る内容をもとに、日本と韓国を比較し、研修参加者全体で一緒に学びを深めます。

研修参加者はすべてのプログラムに参加する必要はありませんが、6割以上の参加を目指してください。なお、座学と定期ミーティングについては、当日参加できない場合に備え、可能な限り録画データを共有します。

① 座学

学習テーマ設定の一助として、また、研修全体の背景情報として、基礎的な知識を学びます。なお、座学はすべてオンラインで行います。

座学プログラム（予定）

日時	テーマ	場所
6月7日(土) 14:30～17:00	第1回講座 ● 事業解題 ● 送粉昆虫としてのミツバチの役割 ● 蜜源とミツバチの生態	オンライン
6月14日(土) 15:00～17:00	第2回講座 ● 日本の養蜂関連法制度 ● 日本の養蜂関連行政機関と養蜂組織 ● ハチミツの世界	オンライン
6月21日(土) 15:00～17:00	第3回講座 ● ミツバチの飼育技術 ● 世界の養蜂教育	オンライン

② 養蜂家訪問

事業期間中、研修参加校の周辺地域で養蜂場等への見学や養蜂家訪問等を行います。

訪問先の養蜂家については、参加校が決まってから、事務局と学校との間で協議の上セットします。

また、すべての参加校の希望者を対象として、7月下旬～8月上旬に、埼玉県での養蜂関連企業への訪問研修も計画しています（ただし、予算上の制約があるため、確定ではありません）。

③ 定期ミーティング

各校それぞれの活動や研究の成果を共有するとともに、養蜂産業に関する学習を深めるためのグループワーク等を行います。その際には、養蜂技術やミツバチに詳しい専門家からコメントをいただく機会や、類似事業を行う他団体との交流の機会なども設ける予定です。

研修参加校やその数によって時期や時間配分が変更となりますので、次ページの予定は目安と考えてください。参加校が決まった後、改めて日時を調整・決定したうえで、お知らせします。

定期ミーティングプログラム（予定）

実施予定時期	テーマ	場所
7月20日（日） 14:00～18:00	<ul style="list-style-type: none"> 各校の養蜂学習の活動内容を共有・交流 ※海外研修のオリエンテーションと同日開催。オリエンテーションには、海外研修に参加しない生徒も参加可	東京近郊／ オンライン
10月上旬中旬 午後の3時間程度	<ul style="list-style-type: none"> 各校の活動状況・養蜂家訪問研修の結果等を共有 発表イベントに向けた準備など 	東京近郊／ オンライン
11月下旬～ 12月上旬 午後の3時間程度	<ul style="list-style-type: none"> 各校の活動状況・養蜂家訪問研修の結果等を共有 発表イベントに向けた準備など 	東京近郊／ オンライン

※ 事務局の都合により、時期がずれることやオンライン開催のみとすることがあります。

※ 研修参加者の要望や予算によっては、ミーティング回数を増やす可能性があります。

3) 海外研修

海外研修として、韓国で研修を実施します。海外研修には各校の代表者が参加します。

韓国旅行のプログラムは、8月16日～8月24日（前泊～帰国報告会含む）で実施し、次ページに示すスケジュールを予定しています。前泊から帰国報告会まで、すべての日程に事務局が同行します。また、韓国国内のプログラムには、養蜂専門家も同行予定です。

7月20日（日）17:00-18:00（時間予定；参加校決定後改めて連絡）で、オリエンテーションを行います。オリエンテーションには、海外研修に参加する代表者の他、代表者の保護者、学校関係者および海外研修に参加しない研修参加者も参加できます。

海外研修前にはそれぞれの学校で、韓国で知りたいことを検討し、代表者に質問を託すことで、研修参加者全体で共通の問題意識を持って海外研修に臨めるようにしてください。日本帰国後はそのまま東京近郊で2泊し、帰国翌日は報告準備、翌々日は報告会を行います。

報告会は、海外研修に参加しなかった研修参加者と学びを共有することを主な目的としますが、学校関係者や保護者の皆様にもご参加いただけます。会場での対面参加とオンラインでの参加のハイブリッドとします。

韓国の養蜂は、日本と同様に小規模、あるいは中規模経営が多いのが特徴ですが、養蜂家数は日本の約2倍、蜂群数は日本の約11倍の養蜂大国であり、技術や資材の開発も進む養蜂先進国でもあります。日本でも韓国製の養蜂資材が利用されています。

一方、世界の養蜂現場を悩ませているミツバチヘギタダニの被害は韓国でも深刻化しており、蜂群の不足に対処するため自治体が養蜂家に補助金を支給するなど、対策が講じられる事態となっているようです。

日本にも共通する課題への取組みと先進的な取組みの両方を学び、韓国との比較学習を通じて日本を振り返ることで、日本の養蜂産業の課題や課題解決へのアプローチを考える機会です。

主な研修内容

	内容	日時・場所（予定）
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 韓国旅行の日程 旅行に当たっての留意点（気候・生活等）他 	7月20日（日）17:00-18:00 東京近郊／オンライン
出発前泊	<ul style="list-style-type: none"> ホテル集合（前泊：羽田空港近辺予定） 	8月16日宿泊
韓国研修	<ul style="list-style-type: none"> 韓国の飼育技術、病虫害防除の現状 韓国の蜜源・花粉源 韓国の養蜂組織・法制度 韓国における養蜂技術開発と普及 韓国の自然環境と養蜂 韓国の社会と養蜂 韓国と日本の養蜂の比較 研修振り返り・報告 	8月17日（月）～ 8月22日（火）
報告準備	<ul style="list-style-type: none"> 韓国研修の報告準備 （後泊：羽田空港近辺予定） 	8月23日（水）終日
帰国報告会	<ul style="list-style-type: none"> 韓国研修報告 	8月24日（水）10:00-12:00 東京近郊／オンライン

韓国研修日程（予定）

		内容	宿泊地
8/16	土	前泊(参加者顔合わせ等)	羽田近辺
8/17	日	羽田→金浦	漆谷 釜山 光州 ソウル等
8/18	月	関連機関訪問(養蜂協会、養蜂研究所等)(2ヵ所程度) 蜂場・養蜂企業訪問(4ヵ所程度) 蜂具メーカー・販売店訪問(2ヵ所程度)	
8/19	火		
8/20	水		
8/21	木		
8/22	金	金浦→羽田	羽田近辺
8/23	土	海外研修報告会 準備ワークショップ	羽田近辺
8/24	日	海外研修報告会(羽田近郊の会議室／オンラインで接続) 午後 解散	

※高校生は、原則として全日程相部屋です。

※前泊の集合時間は未定ですが、午後3時以降を想定しています。

※宿泊地や具体的な訪問先は変更する可能性があります。

※集合時間、詳細な日程については、確定次第、参加校にお知らせします。

4) 成果発表

① 成果発表会

研修参加者には、事務局が主催する成果発表会での発表をお願いします。各校から代表者1～2名程度に参加いただく予定です。

具体的な発表の場や日時は現時点では未定ですが、会場を押さえるため、研修参加校が決まり次第、日程を調整の上で確定します。成果発表会には、可能な限り全ての研修参加校に参加いただきます。日程調整にご協力ください。

成果発表プログラム（案）

予定時期	内容	場所
3月上中旬	【1日目午後】 <ul style="list-style-type: none">発表準備ワークショップ 【2日目午前】 <ul style="list-style-type: none">発表準備ワークショップ(続き) 【2日目午後】 <ul style="list-style-type: none">成果発表会<ul style="list-style-type: none">✓ 事業全体の紹介✓ 研修成果と今後の学習✓ その他	東京近郊／オンライン

② 中間報告会

ミツバチサミット等の養蜂関係イベントでの発表も予定しています。中間報告は、数校の代表校が参加することを予定しています。

③ 各校での発表

各校独自のイベントなどで、本研修について積極的に報告してください。その場合の事務局への情報共有についてもご協力をお願いします。

④ 事業報告書および概要版の発行と配布

本事業では、本事業の成果をできるだけ広く周知するため、研修実績等の他、参加者(校)が作成する報告書を取りまとめ、事業報告書とその概要版を作成します。事業報告書と概要版は、JAICAF ウェブサイトで公開するとともに、研修参加校、養蜂関係者、各県の図書館、農業農村開発専門家等に配布します。

5) 参加経費

事務局が負担する経費は表1のとおりです。

表 1 事務局が負担する経費とその範囲

費目	範囲、詳細、備考
1. 国内研修 <ul style="list-style-type: none"> ● 交通費及び宿泊費 ● 養蜂家への謝礼金 ● イベント登録料 	養蜂家訪問研修、定期ミーティング、事務局が参加を依頼するイベント・発表会参加への参加など、事務局が指定する研修プログラムへの参加に係る交通費及び宿泊費 ※各校高校生1名分及び指導教員1名分を原則とし、それ以外の経費は各自（各校）が負担する ※宿泊費は事務局が必要と判断した場合のみ：事前に連絡します。 見学謝礼金（1カ所1回限り7,900円源泉税込：JRA規定による） 事務局が指定するイベント参加のための登録料（必要な場合） ※各校1名分を原則とし、それ以外の登録料は各自（各校）が負担する
2. 海外研修 <ul style="list-style-type: none"> ● 旅行代金 	往路は前泊ホテル集合、復路は帰国報告会場（東京近郊）解散。 前泊及び後泊ホテル代、韓国旅行代金（フライト代、滞在費（韓国内各日3食付）、海外旅行保険代）を事務局負担。 【以下は各自負担】 ※前泊ホテル→羽田空港、羽田空港→後泊ホテルの移動 ※手荷物超過料金 ※服装や持ち物の準備、個人的な通信及び旅行中の飲料や土産購入等プログラム外の私的な支出 ※集合・解散場所と自宅間の移動経費及び日本国内の食事代 ※社会通念上やむを得ない事情を除き、自己都合による不参加に伴うキャンセル料は本人負担といたします。

5. 募集

1) 対象

養蜂やミツバチに関する事柄を課外学習等に取り入れている高等学校において、当該学習プログラムに参加する高校生及びそれを指導する教員

2) 募集内容

(1) 国内研修と(2) 海外研修に分けて募集します。

学校単位で応募をお願いします。参加を希望する高校は、次ページの提出先まで、「2. 募集」の「4) 応募書類」に示す必要書類を提出してください。

国内研修には原則として人数制限は設けません。国内研修のみ参加することもできます。

海外研修は各校代表である高校生及び引率として指導教員が参加するものとします。海外研修の参加人数は高校生計16名・引率者（指導教員）計2名（予定）とし、応募者の中から、外部専門委員会による選考を経て決定します。海外研修への参加を希望する学校は、各校の候補者を推薦してください。高校生においても、指導教員においても、原則各校1名

の推薦とします。複数名の応募も可としますが、その場合は、校内選考を経て、候補者に優先順位を付して申し込んでください。

提出期限：**2025年5月19日（月）午後3時** 必着

提出方法：メールによる電子提出

件名【2025JRA 養蜂研修への応募（学校名）】としてください。

※PDF 1 ファイルにまとめ、必ずパスワードをかけること

※パスワードは別メールで提出先に連絡のこと

提出先：JRA 養蜂研修事業事務局

公益社団法人国際農林業協働協会 業務グループ

西山 deske@jaicaf.or.jp / 森 m.mori@jaicaf.or.jp

問合せ先 TEL 03-5772-7880（土日祝日を除く 10:00-17:00）

受領後、2 営業日以内に受領の連絡を行います。受領メールが届かない場合は、問合せ先までお電話ください。

3) 参加要件

研修参加者（校）は、下記を満たすこととします。

(1) 国内研修

- ① 養蜂やミツバチに関心を有していること
- ② 年間を通じて積極的に研修プログラムに参加し、他の研修参加者とも交流すること
- ③ イベントや成果発表会で成果を発表する意思を有していること
- ④ 年間活動報告を作成し、事務局に提出すること
- ⑤ 参加者は、事務局が本研修事業実施中に行うアンケート調査に応えること
- ⑥ 参加校は、本研修事業を担当する指導教員を決めること。担当の指導教員には、参加生徒と事務局の間で連絡調整役を担っていただきます
- ⑦ 参加校は、事務局が3年後に実施するアンケート調査に協力すること
- ⑧ 本研修事業の広報に協力すること
- ⑨ 氏名・学校名・顔写真・活動報告・発表資料等の研修での活用、JAICAF ホームページや刊行物等での公表、他校研修参加者による引用を承諾すること。また、メディア取材についても承諾すること
- ⑩ 参加各校の責任において、事故等に備えること（事務局で保険加入は行いません。代表者が参加する韓国旅行については、事務局で旅行傷害保険を手配します。）

(2) 海外研修

<高校生>

- ① 国内研修に参加すること
- ② 8月16日（土）～8月24日（日）のすべてのプログラムに参加すること
- ③ 他校の研修参加者と協力し、自立的かつ積極的に学習に臨む姿勢を有していること

- ④ 研修で学んだことを所属先高等学校の関係者に共有するとともに、校外にも積極的に広報すること
- ⑤ 6日間の韓国滞在に十分な心身の健康を保持していること
(特別にケアが必要な場合は、事前に事務局までご相談ください。)
- ⑥ 過年度の事業で実施した海外研修に参加したことがないこと(過去の応募で選出されなかった場合は応募可能です)

<引率者(指導教員)>

- ① 所属先高等学校における養蜂学習で指導的役割を果たしていること
- ② 研修参加に際し、所属先高等学校校長の許可を得ること
- ③ 国内研修に参加すること
- ④ 8月16日(土)～8月24日(日)のすべてのプログラムに参加すること
- ⑤ 6日間の韓国滞在に十分な心身の健康を保持していること
- ⑥ 事務局と協力して海外研修参加生徒の指導監督を行うとともに、必要に応じて事務局に対して助言を行うこと
- ⑦ 引率者は、国内研修⑥でいう担当の指導教員を兼ねることができます
- ⑧ 所属先高等学校の高校生が参加しない場合、引率者のみの応募も可とします

選定され海外研修に参加することになった高校生・引率者(指導教員)の皆さんには、下記を求めます。

- 相手国の文化を尊重すること
- 韓国旅行中は事故の無いように注意を払い、事務局による安全上の指示に従うこと
- ハチアレルギーを含め、自身で責任をもって体調管理を行うこと
- 帰国後、研修報告書を提出すること
- 帰国報告会やその他発表の場で、事務局の求めに応じて研修報告を行うこと
- また、韓国旅行に当たって、旅行申込書、(未成年者については)保護者同意書等、旅行に必要な書類を提出いただきます。

4) 応募書類

次の書類を様式に従って作成し、提出してください。

<共通書類>

- ① 申請書(様式1、p.12)
- ② 養蜂・ミツバチに関する課外活動の概要(様式2、p.13)
- ③ 画像・映像の使用及びメディア取材承諾書(様式3、p.15)
- ④ 学校概要(様式自由、既存のパンフレットなどで可)

<国内研修>

- ⑤ 国内研修の参加者リスト(様式4、p.16)

<海外研修：高校生>

- ⑥ 海外研修参加希望高校生の情報と自己推薦文（様式 5、p.17）
- ⑦ 海外研修参加希望高校生について、学校関係者による推薦文（様式 6、p.18）

<海外研修：引率者（指導教員）>

- ⑧ 海外研修参加希望指導教員の情報と自己推薦文（様式 7、p.20）

5)海外研修参加者の選考

外部専門家による本事業研修推進委員会にて審査し、参加者を選定します。審査に当たっては、できるだけ多くの参加校を得るため、原則として1校1名を選定し、さらに空席があった場合に限り同じ学校から2名以上を選定します。

高校生においては16名を、引率者においては2名を選定しますが、海外研修予算に余裕があった場合や急なキャンセルに備えて、高校生は4名程度、引率者は1名程度を補欠として選定します。補欠者については、7月10日までに電話にて可否を連絡します。

なお、韓国についての知見や養蜂技術の有無は、選考には影響しません。選考に当たったの評価の視点は【添付資料】のとおりです。

【本事業問合せ先】

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF）

業務グループ 森 麻衣子（m.mori@jaicaf.or.jp）

西山 亜希代（deske@jaicaf.or.jp）

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-10-39 赤坂 KSA ビル 3 皆

Tel: 03-5772-7880 / Fax: 03-5772-7680

【添付資料】

評価の視点

< 共通 >

1. 学校において、養蜂学習は持続する体制にあるか
2. 学校は、養蜂学習に熱心に取り組んでいるか、あるいは今後取り組むか
3. 学校は、本研修事業に関心があるか
4. 学校は、本研修事業をバックアップするか
5. 学校は、本研修事業について広報できるか
6. 養蜂学習は、学校内外の関係者や地域社会と関わりを持っているか、あるいは今後関わりを持つ計画があるか

< 高校生 >

1. 参加希望者は、研修に対して熱意を有しているか
2. 参加希望者は、養蜂産業への関心を強く有しているか
3. 参加希望者は、他者へ敬意を払い、他者との交流に積極的な姿勢を有しているか
4. 参加希望者は、海外研修の成果を自校関係者等と共有する具体的なアイデアを有しているか

< 引率者（指導教員） >

1. 参加希望者は、養蜂産業への関心を強く有しているか
2. 参加希望者は、自校関係者の指導に当たって、海外研修の成果を活用する具体的なアイデアを有しているか
3. 参加希望者は、海外研修に引率者として参加する十分な経験と熱意を有しているか

【様式 1: 申請書】

公益社団法人国際農林業協働協会
会 長 松 原 英 治 殿

申請者
学校住所
学校名
代表者

印

2025 年度 JRA 畜産振興事業
次世代の養蜂人材育成のための研修事業
研修参加申請書

標記研修事業のうち、**研修への参加を申請したく、下記の書類を提出します。

記

養蜂・ミツバチに関する課外活動の概要
画像・映像の使用及びメディア取材承諾書
学校概要
国内研修の参加者リスト（高校生／指導教員）
海外研修参加希望生徒：候補者情報及び自己推薦文 件
海外研修参加希望生徒：学校推薦文 件
海外研修参加希望指導教員：自己推薦文 件

担当する指導教員
氏名
職位
連絡先電話番号
連絡先 e-mail アドレス

- ※ 本文1行目の「**研修」には、“国内研修”あるいは“国内研修及び海外研修”のどちらか適したものをに入れてください。
- ※ 提出資料は必要なものだけ記載ください。

【様式 2: 養蜂・ミツバチに関する課外活動(養蜂学習)の概要】

学校名		所在地	
		TEL	
養蜂学習の名称			
指導者	氏名		
	所属	職位	
	TEL		※研修中、連絡のつきやすい番号
学年別参加生徒数			
<p>養蜂学習の概要</p> <p>▶ 沿革、主な活動、今年度の学習目標と年間計画、学校内の他の生徒や他の課外活動等との連携状況、過去数年間の実績や成果、特にアピールしたいことなどを記載ください。</p>			

養蜂学習の概要（つづき）

▶ 地域社会との交流・協働や社会貢献につながる活動があれば、その具体例（実績や今後の予定）

広報活動

▶ 学校の広報媒体に活動報告を掲載することがあれば、その具体例（実績や今後の予定）

▶ その他に発表の機会があれば、その具体例（実績や今後の予定）

来年度以降の継続可能性（右記から1つ選択）

高 中 低 不明

→「高」を選んだ場合、
その根拠

本表作成者

氏 名：

問合せ先電話番号：

【様式 3:画像・映像の使用及びメディア取材承諾書】

公益社団法人国際農林業協働協会
会 長 松 原 英 治 殿

申請者
学校住所
学校名
代表者 印

2025 年度 JRA 畜産振興事業
次世代の養蜂人材育成のための研修事業にかかる
画像・映像の使用及びメディア取材承諾書

本研修に関して、事務局、当校から参加する生徒及び指導教員（以下、研修参加者という）、あるいは他校の研修参加者によって撮影された、あるいは、研修参加者本人から提供された研修参加者の画像・映像については、研修に資する場合及び本研修の成果を広報することを目的とする場合、事務局及び他校研修参加者による使用を承諾します。

また併せて、研修や成果発表会等イベントでのメディア取材についても、同様に承諾します。

なお、本件については、当校所属のすべての研修参加者の承諾も得ていることを報告します。

【様式 4:国内研修参加者リスト】

学校名：			
養蜂学習の名称：			
国内研修：参加生徒 合計		人	参加指導教員 合計
			人
No.	氏 名	学 年	備 考
生 徒	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
指 導 教 員			

- ※ 行が不足する場合は、行を足して作成ください（複数ページに亘る場合は、ページ番号／総ページをフッターに入れてください）。
- ※ 班やグループに分かれていれば、班・グループ名を備考欄に入れてください。
- ※ 備考欄にはこのほか、班やグループで扱っている研究テーマ、養蜂学習内での役割（部長、班長など）があれば、差し支えない範囲で記載してください。

【様式 5: 海外研修参加希望者(高校生): 候補者情報及び自己推薦文】

学校名：	養蜂学習名称：		
氏名：	年齢：	性別：	学年：
養蜂学習での役割：			
自己推薦文（800字以内）			
<p>▶ ①養蜂と自分の関係、②養蜂産業について学びたいこと、③海外研修への期待、④海外研修に参加する姿勢、⑤学んだことを友人たちとどう共有し学習に活かすかも記載に含めてください。</p> <p>▶ 学習／成果発表での具体的な希望やアイデアがあれば、記載ください。</p>			
<p>韓国への渡航に当たって特別な配慮が必要な場合、具体的に教えてください。 (審査には影響しません)</p>			

【様式 6:海外研修参加希望者(高校生):学校推薦文】

学校名：		養蜂学習名称：	
学校あるいは養蜂学習プログラムとして、海外研修に期待すること（自由記載 400 字程度）			
①希望者氏名：	性別：	学年：	候補者順位：
推薦文（自由記載 400 字程度）			

②希望者氏名：	性別：	学年：	候補者順位：
推薦文（自由記載 400 字程度）			
③希望者氏名：	性別：	学年：	候補者順位：
推薦文（自由記載 400 字程度）			
推薦文作成者			
氏名：		職位	
養蜂学習における役割：（推薦文作成者の役割を記載ください）			

【様式 7: 海外研修参加希望者(引率者(指導教員))】

学校名：	養蜂学習名称：
希望者氏名：	候補者順位：
指導教員としてのこれまでの養蜂学習への取組（学校外での活動を含む）、引率経験など	
自己推薦文（600字程度）応募理由、研修への期待・研修で実現したいこと、今後の指導への活用計画、養蜂産業への関心、養蜂学習への学校の支援体制についても記載ください。	

